

第1学年 実践例（生活科）

本時：平成26年11月13日(木) 場所 教室 指導者 教諭 桐田 照美

1 単元名 1年「あきとともだち」（教育出版）

2 単元について

- (1) 本単元は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容(5)「季節の変化と生活」、(6)「自然や物を使った遊び」を受けて設定したものである。

本単元では、秋の自然を観察したり、木の実や木の葉を使った遊びをしたり、おもちゃを製作したりすることを通して、季節の変化とともに自分たちの生活に秋を取り入れていくことの楽しさに気づき、自然に親しむことをねらいとしている。また、単元の最後に、保育園児やお世話になった人たちを「あきのたからものランド」に招待するという時間を設定する。招待する人のことを考えながら友達同士で計画・準備・実行することで、協力して一つの活動を成し遂げることの大事さや人との交流の喜びを味わわせ、自分たちの生活をつくりあげていこうとする意欲と実践的な力を育てることができる単元である。

- (2) 本単元の系統は次のとおりである。

1年	1年	1年	1年	2年
はるとともだち	なつとともだち	あきとともだち	ふゆとともだち	作ってためして

- (3) 本単元にかかわる児童の実態は次のとおりである。(16名)

本学級の児童は、屋外での活動を好み、昆虫を探したり季節の植物を採取したりする活動に意欲的に取り組んできた。また、イモリや掘ったサツマイモを観察して、発見の喜びや楽しさを体感してきた。生活科については、16名全員が「好き」と答えており、春の探検や動植物と触れ合う活動についても、ほとんどの児童が意欲的に取り組んでいた。

秋の自然物を使った遊びについては、ほとんどの児童が、どんぐりごま、木の葉や木の実を使った遊びや飾り作りを体験している。その多くが、就学前に各園で体験していた。

3 仮説にせまる授業での取組

(1) 問題設定の工夫(仮説1)

- 自然と直接かかわる体験活動を取り入れることにより、自然への関心を高め、その不思議さや面白さを実感できるようにする。
- 単元の最後に「あきのたからものランドをひらく」という計画を立て、学習への意欲を高める。

(2) 自分の考えをもち、表現できる手立ての工夫(仮説2)

- 秋探しに出かけて収集した「秋を感じるもの」を観察させ、「秋のものクイズ」を作らせる。
- 集めてきた物でどんなおもちゃや遊びができるかを出し合い、その中からやりたい物を選ばせる。その際の参考になるように、事前に学級図書に関連する本を置いておく。
- 作りたい物が似ている児童同士でチームを作り、協力しながら取り組ませる。
- 「あきのたからものランド」に招待する人に楽しんでもらうためには、秋の物を使った遊びやおもちゃをどのように紹介したらよいか、チームごとに話し合って計画を立てさせる。
- 学級の中で「ミニあきのたからものランド」を開き、友達の開いたコーナーで遊ぶ中で感じたこと(よかったこと、アドバイス)を出し合い、本番に向けて練習を行う。
- 招待状を書いたり、遊び方を紹介したりする活動を通して、言葉で表現し相手に伝えることの大事さや交流の楽しさを味わわせる。

(3) 身近な生活や自然で理科を実感させる工夫(仮説3)

○秋になっても紅葉しない木や葉が落ちない木があることに気付かせる。

4 単元の目標

秋になった校区を散歩したり、秋の自然物を探したりしながら、季節の変化に気付くことができるようにするとともに、秋の自然物や身の回りの素材を利用しておもちゃや飾りを作ったり、遊び方を工夫したりしながら、みんなで秋の遊びを楽しむことができるようにする。

5 単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
① 秋の虫や木の葉、木の実に興味をもち、探そうとしている。 ② 木の実や木の葉の特徴を生かして遊びに使う物を作ったり、友達と遊んだりしようとしている。 ③ 「あきのたからものランド」を開くために話し合ったり、招待した人に遊び方を説明したりしている。	① 諸感覚を使って、身近な自然を観察している。 ② 集めた木の実や木の葉を使って遊ぶために、必要な材料や道具を準備して作っている。 ③ 招待した人に楽しんでもらえるような方法を考えている。 ④ 活動を振り返り、嬉しかったことや楽しかったことを絵や文で表現している。	① 秋の自然の様子や自然物の特徴に気付いている。 ② 木の実や木の葉で遊びを工夫するおもしろさに気付いている。 ③ 招待した人に喜んでもらうためには、適切なかわり方があることに気付いている。

6 指導と評価の計画 (17 時間取扱い)

次	時	主な学習活動 [◇教師の指導・留意点] <>…小単元名	評価規準及び評価方法
第1次	1	<あきとともだち> はるやなつとくらべて、木や虫はどのようにかわったのだろう	関心・意欲・態度① 観察・発表
		○校庭へ出て学校の秋を探す。 ○見つけた秋を発表する。 ○日の岡山に、秋を探しに行く計画を立てる。	
第2次	2 5	<あきをかんじよう> 目、手、みみ、はな、口をつかって、あきをさがそう	思考・表現① 観察・発表・手紙
		○日の岡山で、虫を探したり木の実や落ち葉を集めたりして、自然との触れ合いを楽しむ。 ○探検して思ったことを手紙に書く。	
	6	◇サイエンスサポーターの協力のもとで、探検を行う。 ◇秋探しでやりたいこと、そのための準備物や服装について考えさせる。	
		◇活動の振り返りに生かすことができるように写真を撮っておく。	

第3次	⑦ 本時 1時間	<p><いろいろなはやみ></p> <p>とくちょうをかながえて、「あきのものクイズ」をつくろう</p> <p>○見つけた木の実や木の葉・生き物の特徴をとらえクイズをつくる。</p>	<p>◇秋探しで児童が見つけた物の写真を黒板に貼り、実物があるものは、教室の後方に展示しておく。</p>	<p>気付き① シート</p>
第4次	3時間 8 9 10	<p><あきとあそぼう></p> <p>木の葉や木の実で、あきのおもちゃやかざりをつくろう</p> <p>○木の実や木の葉を使って遊ぶための道具やおもちゃを作る。</p> <p>○作ったおもちゃで、友達と一緒に遊ぶ。</p>	<p>◇事前に教室の図書コーナーに秋の物を使った遊びやおもちゃの本を展示し、作る物を考えさせておく。</p> <p>◇作り方や遊び方、安全面での留意点の指導に使ったカードは、黒板に掲示しておく。</p> <p>◇作りたい物が同じ児童同士は、相談できるように側で作らせる。</p> <p>◇自分で作ったおもちゃで遊んだり、友達と交換して遊んだりして、遊ぶ楽しさを味わわせる。</p>	<p>思考・表現② 気付き② 観察・シート</p> <p>関心・意欲・態度② 観察</p>
第5次	7時間 11 12 13 14 15 16 17	<p><みんなでたのしもう></p> <p>あきのたからものランドをひらこう</p> <p>○活動をふり返り「あきのたからものランド」の計画を立て、招待状を書く。</p> <p>○遊びに使う物や、コーナーに必要なものを作る。</p> <p>○「ミニあきのたからものランド」(リハーサル)を行い、よかったところやアドバイスを出し合う。</p> <p>○前時のアドバイスをもとに、各コーナーを工夫する。</p> <p>○保育園児やお世話になった人を招待し、一緒に楽しむ。</p> <p>○活動をふり返り、楽しかったことや嬉しかったことを、絵や文に表す。</p>	<p>◇招待する人や招待状に書くことを話し合って決めさせる。</p> <p>◇各コーナーごとに必要な材料や道具について準備させておく。</p> <p>◇全員が自分のコーナー以外での遊びを体験できるようにする。</p> <p>◇それぞれのコーナーについて、よかったところやアドバイスを出し合う。</p> <p>◇招待した人に喜んでもらうための工夫を確認する。</p> <p>◇招待した人が一か所に偏らないように、回る順序を決めておく。</p> <p>◇活動時の写真をスライドショーで提示し、活動を想起させる。</p>	<p>思考・表現③ 発表・招待状</p> <p>思考・表現③ 観察・発表</p> <p>関心・意欲・態度③ 観察</p> <p>気付き③ 思考・表現④ シート・発表</p>

7 本時の学習（7/17時間）

(1) 目標 見つけた木の実や木の葉、生き物の特徴に気付き、秋の物クイズをつくることができる。【気付き】

(2) 仮説との関連

本時においては、仮説2を中心として研究を進める。秋の物の写真や実物から特徴をとらえ、それをクイズにして出題することは、秋の物についての自分の見方を表現することにつながる。また、互いの考えを共有する場にもなるととらえる。

(3) 展開

過程	時間	学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点・評価	備考
つかむ	2	1 教師の出した「秋のもののクイズ」の答えを考える。 ・色、形、様子 2 めあての確認をする。	○どんな言葉で答えを思いついたのか尋ね、「特徴」について考えさせる。 ※外が紫色で、中は白っぽいです。焼くとおいしいです。	
		(めあて) とくちょうをかながえて、「あきのものクイズ」をつくろう		
	5	3 日の岡山探検のときの写真をスライドショーで見る。 ・ぼくが見つけたのがあった。 ・サイエンスサポートの先生の話聞いたな。 ・ぬべかな？あけびかな？	○秋探し活動の様子や見つけた物の写真をスライドショーで提示する。 ○日の岡山で見つけた物の写真を黒板に貼る。 ○写真には番号をつけておく。	写真スライドショー
もとめる	5	4 クイズを作る。 (1) クイズの作り方を知る。 ・さつまいもの特徴は…。 ・外側が紫色。 ・焼いたらおいしくなる。 ・秋になると、大きくなる。	○学級全体で1つのものについて、作り方を確認する。 ----- (1) 秋の物を選ぶ。 (2) 答えの番号を書く。 (3) 特徴を3つ考えヒントを書く。 (4) 読み直して先生に見せる。	写真
	13	(2) 選んだ物についてクイズをつくる。 ・実物を持ってきて、観察しよう。 ・「くつつく」って書いたら分かりやすいかな。 ・秋になると、赤くなる。	○五感カードを提示する。 ◆気付き (クイズシート) B基準 秋の物の特徴を入れてクイズをつくっている。 A基準 ○秋の特徴をとらえたクイズをつくっている。 < B基準に達していない児童への手立て > ○色や形、触った感じについて問いかけ、言葉を引き出す。 < B基準に達した児童に取り組ませる活動 > ○自分がつくったもの以外の実物にも触れさせておく。	秋の物の実物クイズ用紙

ふかめる	15	5 クイズ大会を開く。 ・茶色だけではわからないな。 ・くつつくものは、いくつかあったな。 ・「苦い」で分かったぞ。	○班ごとに前に出て出題させる。 ○話し方聞き方名人を意識させる。 ○シートに答えを書き込ませる。	解答用紙 鉛筆 赤鉛筆
まとめ	3	6 本時の学習を振り返る。 ・特徴を考えるのが難しいのと簡単なのがあった。 ・秋になると葉っぱが赤や黄色になる。 ・実が食べられるようになる。 ・くつつくものが増える。	○「めあて」について振り返らせる。 ○秋になるとどんなふうに変ったのか（秋の特徴）について、板書もとに振り返らせる。 (例) 柿、いちよう	
	2	7 教師の出したクイズの答えを考える。	○目には見えないものでも秋を感じることができることを、実感させる。 ヒント…目に見えない。窓から入ってくる。冷たい。	

○ 「徹底指導」と「能動型学習」

本時においては、秋の物の写真や実物を観察して特徴をとらえクイズをつくらせることで、能動的な学習につなげたい。そのために、最初にクイズづくりのポイントを確認し、みんなで1問つくってみること（徹底指導）で、個人がスムーズに活動を進めることができるようにする。このクイズづくりを通して、身近な自然を観察する力を身に付けさせたい。

○ 本時で身に付けさせたい科学的な言葉

色、形、大きさ、長さ、太さ、手ざわり、におい、味

8 研究の実際

【既にもっている見方や考え方（素朴な概念）】

児童は、季節のイメージを「温かい、暑い、涼しい、寒い」「花が咲く、雪が降る」など、気温や一般的な様子でとらえている。また、自然や生き物の季節ごとの変化について体験した中から知っていることを発表することはできる。秋については、「寒くなる、木の葉が落ちる、葉の色が赤や黄色になる、お米ができる」など、樹木の変化や植物の特徴に漠然と気付いている。

【仮説1について】「地域の山に秋探し探検に出かける」「採取した秋の物から遊び道具を作り、園児を招いて一緒に遊ぶ」という見通しをもたせる

本単元の導入では、校内で秋を探す活動を行ったあと、「（学校から見える）日の岡山に探検にいこう」という次の活動を知らせると、児童は「学校よりもっとたくさんの秋が見つけられそうだと、秋探検への意欲を見せた。

また、秋探検や住んでいる地域などで採取してきた秋の物を使って遊び道具を作り、保育園児を招待して「秋のたからものランド」を開くという計画を提示すると、「保育園で夏祭りに招待してもらったお返しができる」と張り切っている姿が見られた。

【仮説2について】自分がとらえた特徴について考えをまとめ、表現させる

本時では、自分の考えをもたせるという視点から秋の物の写真や具体物を提示し、選ん

だ物の特徴（秋らしい特徴も含む）を考えてクイズをつくらせた。秋探検で見つけた物を写真で確認しながら黒板に掲示したり（写真1-①）、秋の物コーナーに設置していた具体物に触れさせたりした（写真1-②、③）ことで、児童は五感を生かしてクイズをつくることができた。

また、「秋になるとどうなるのか」という観点でヒントの1つに盛り込んだことで、児童は「赤くなる、おいしくなる、くっつく、下に落ちる」など、選んだ物の秋としての特徴を考えながらクイズづくりに取り組んでいた。

クイズをつくった後は、班ごとに前を出てクイズ大会を行った（写真1-④）。児童は、ヒントを聴き漏らすまいと出題者の声に耳を傾け、答えがわかると勢いよく手を挙げて答えていた（写真1-⑤）。



（写真1-①）



（写真1-②）



（写真1-③）



（写真1-④）

この活動を通して、児童は自分が作った以外の秋の物の特徴を再確認することができたと同時に、全体的な秋の特徴に気付くことができた。

後日、「学校みんなにもクイズを出したい」という児童の要望を受け、学年の掲示板に「あきのものクイズコーナー」を設置することにした。校内放送で全校児童に呼びかけをすると、多くの児童がやってきて答えを解答用紙に記入してくれた。児童は、「自分たちが丸つけをしたい」「全問正解した人には、秋のもので作ったもの（どんぐりトトロなど）をプレゼントしたい」と、休み時間を使って意欲的に活動に取り組んでいた。



（写真1-⑤）

【仮説3について】身近な自然に目を向けさせ、季節の移り変わりに気付かせる

単元を終えるころに校庭の樹木に目を向けさせた。児童は、「ボランティアで落ち葉を集めていたところの木は、葉っぱが全部なくなっている」「緑のまんまの木がある」「縦割り班で決めている）わたしたちの木は、葉っぱがなくなったのに、〇〇さんたちの木は葉っぱが緑色のまま」など、樹木によって様子が大きく異なっていることや、秋が深まっていく中での樹木の変化に気付くことができた。

【より高まった科学的な見方や考え方（科学的な概念）】

本単元での活動を通して、児童は秋の自然への関心が高まるとともに、五感を使って秋のものの特徴をとらえたり、サイエンスサポーターの話から「秋に実る実の秘密」や「くっつく植物の秘密」を学んだり、秋に関する本などから知識を得たりして、秋の自然をとらえ楽しむことができた。さらに、「どうして葉が落ちる木と緑のままの木があるのか」という疑問や「いろいろな種類（色、形、触った感じ）の葉っぱがある」などの新たな気付きをもった児童もいた。